

# 知っておきたいくすりの豆知識

2

薬剤部

くすりは形や種類によって、

使い方や効き目に様々な違いが

あります。前回の病院だよりの

「知っておきたいくすりの豆知

識①」において、くすりには大

きく分けて口から飲む「内服

薬」、皮膚、目や鼻など粘膜に

使用する「外用薬」、血管や筋

肉などへ直接入れる「注射薬」

の3種類の剤形に分類できるこ

と、そしてそれぞれのくすりの

大まかな特徴などを紹介させて

頂きました。今回からはシリー

ズ化してそれぞれのくすりや剤

形について細かく特徴や注意点

などを紹介していきます。

今回は、「内服薬」の中でも

最も飲む機会が多い「錠剤」と

「カプセル剤」について取り上

げていきます。

## 錠剤

錠剤とは、1回分の量のくす

りを圧縮して一定の形にしたも

のです。錠剤は、散剤や注射剤

と比べて1回量がわかりやす

く、取り扱いも簡単であるとい

う理由で内服薬の中で最も使用

頻度の高い剤形となっています

。錠剤と一口に言っても製剤

の方法によって様々な種類が存

在します。乳糖やデンプンをく

すりの有効成分と混ぜ、そのま

まくすりの形にしたオーソドッ

クスな錠剤を裸錠、素錠とい

います。それに対し、裸錠の周り

を砂糖や高分子膜で覆った錠剤

をそれぞれ糖衣錠、フィルム

コーティング錠といいます。糖

衣錠やフィルムコーティング錠

は、裸錠のままではおいや味が

がするときに用いられ、本来く

すりがもつ臭みや苦みを隠して

くすりを飲みやすくします。そ

のためコーティングされたくす

りを噛みつぶしてから服用して

しまうと本来の苦味やにおいが

出てしまい、くすりが飲みにく

くなってしまうため注意が必要

です。

くすりは主に胃や腸で溶けて

吸収されますが、胃で溶けずに

あえて腸で溶けるように設計さ

れた錠剤を腸溶錠といいます。

胃酸などの酸に弱いくすりや、

胃で溶けてしまうと胃に負担を

かけてしまうくすりに使用され

ています。くすりが吸収される

際も、吸収される速度によって

服用回数を調節することが可能

です。くすりがゆっくり吸収さ

れるよう設計された錠剤を徐放

錠といい、錠剤からの有効成分

の放出を遅くすることにより服

用回数を減らし、体内のくすり

の濃度を一定に長時間保つこと

が出来ます。また、ゆっくりく

すりが吸収されるため速効性は

ありませんが、副作用が抑えら

れるということも特徴にあげら

れます。そして腸溶錠、徐放錠

共に砕いてしまうと本来のくす

りの効き方と異なってしまっの

で、嚙んだり潰したりせず服

用していただくことが大切です。

最近では、唾液で溶けて水な

しでくすりが飲めるOD錠と呼

ばれる錠剤が増えています。唾

液ですぐ溶けるため、今まで錠

剤が大きくて飲みにくかった人がOD錠に変更することで、くすりの飲みやすさが改善することがあります。

### 錠剤・カプセル剤の特徴

- ・ 携行しやすく比較的長期保管できる
- ・ 用量もわかりやすく、服用しやすい
- ・ 苦い味を隠すようコーティングされていたり、溶け方が段階的になるように工夫がされている

OD錠（口腔内崩壊錠）

口の中ですぐに溶け、水が無くても飲める

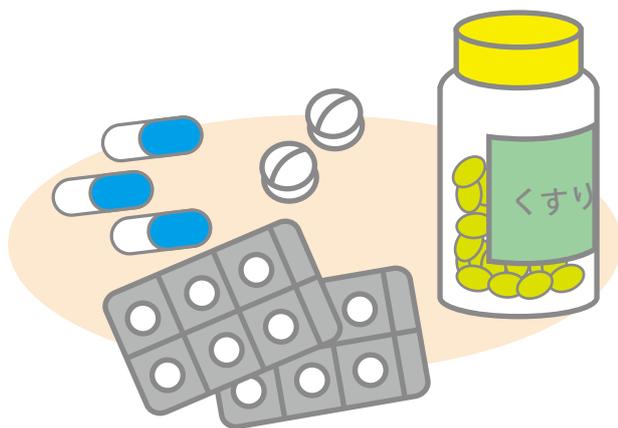
## カプセル剤

カプセル剤には大きく分けて硬カプセル剤と軟カプセル剤の2種類があります。多くの方がイメージされるカプセル剤は硬カプセル剤と呼ばれるもので、中に顆粒が入っています。一方、中に液状の薬物が入ったカプセル剤もあり、軟カプセルと呼ばれています。カプセル剤はくすり本来の臭いや味を隠せることや、カプセル内に早く吸収される成分とゆっくり吸収される成分を同時に閉じ込めることでくすりの効果が長時間続くといった長所があります。ただし欠点としてカプセル剤は錠剤と比べて湿気に弱い、かさが大きくなって飲みにくいといったことが挙げられます。

## 錠剤やカプセル剤の保管

最後にくすりの保管について説明します。錠剤やカプセル剤はアルミのシートに入って保存されており、このシートにも湿気や光からくすりを守る工夫がされています。例えば白い錠剤なのに真っ赤なアルミのシートに入っているくすりがあります。これは赤色のアルミが光を遮る働きを持っており、光に弱いくすりに用いられています。しかし、くすりはアルミシートで守られてはいるものの、基本的に湿気や光に弱いので保管の際には注意が必要です。なるべく直射日光を避けて、湿気の少ない涼しい場所（30℃以下）で保管して下さい。夏場の車内や暖房器具の近くにくすりを長時間置いて置くのは好ましくありません。もし、くすりの保管方法に疑問や不安がある際にはか

かりつけの薬局や病院の薬剤師に気兼ねなく相談してください。



今回は内服薬の錠剤とカプセル剤について紹介しました。次回は小児や高齢者の方に用いられやすい液剤と散剤について知ってほしい知識や注意点を紹介していきます。

（担当：薬剤師 丸山 直哉）